|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 令和６年度　スキップ　保育所等訪問支援　報告書 | 児発管 | 訪問員 |
|  |  |
|  | 　 | 男 | 生年月日 | 2017.11.13 | 所属園 | 沼上こども園 | 学年（クラス名） | 年長（　きく　） |
| 本日のねらい | ・集団での活動に落ち着いて参加する。 |
| 訪問日 | 訪問日の保育内容 | お子さまの様子と支援の内容 | →支援を受けての　お子さまの様子 | 今後の課題・方向性 |
| ５月２４日（金） | 【戸外遊び】【片付け】【フリーデイ（年少・年中・年長の縦割り活動】【栄養の劇】 | ・一人でダンゴムシを捕まえていたので、誰と遊んでいたのか尋ねた。すると何人かの女児の名前を言う。しばらくすると、Yちゃんが戻ってきてダンゴムシについて話し始める。Yちゃんがまたどこかへ出かけて行ったので、本児に「最近は男の子と遊ばないの？」と尋ねてみた。すると「だって、いじわるするから」と答える。・栄養の劇では「赤の仲間」として、歌ったりポーズを決めたりすることができた。・劇終了後、それぞれ自分の役紹介をする場面にて。マイクで一人ずつ「魚です」「大豆です」等、順番に言う。本児は恥ずかしさもあったのか、横を向きながら小さな声で早口で「豆腐です」と言う。その様子が面白かったのか、さくら組の多くの子が笑ってしまう。本児は泣きそうな顔になって、その場でしゃがみ込んでしまう。担任の先生や昨年度の担任の先生が声をかけるが、本児は全く顔を上げる様子はない。しかし、他のグループの役紹介が終わり、もう一度劇を披露することになると、ゆっくりと顔を上げて立ち上がることができた。その際に、遊戯室後方にいた訪問員と目が合ったので、お面を被るようにジェスチャーで伝えた。 | →先生たちの声かけ等をきっかけにしつつも、自分で気持ちを切り替えて、立ち上がることができた。 | ・今回の訪問では、ほとんどの時間を女児と遊んでいた。しかし、男児とのかかわりが全くないわけではなく、本児なりにどうしたらトラブルなく過ごすことができるのか考えているのかもしれない。本児は「いじわるをされる」という表現を使ったが、本児から他児に対してちょっかいを出すこともある。本児の言う「いじわる」の内容や原因については都度詳しく聞きながら、どのように対処したら良いのかを具体的に伝えていく必要があると思われる。・注目行動の結果、相手の過剰な反応（今回の場合は笑われてしまう等）に挫けてしまうことが多いように感じる。自分の行動に対して、自分で責任をもつことができるような逞しさを育てていきたい。また、訪問員の意図がジェスチャーで伝わったことからも、その場でどう行動することが望ましいのかも理解していると思われる。 |